

建設コンサルタントと私の仕事、そして校友会活動について

昭和44年土木卒:中埜 豊



□都市工学科の皆さんが目指すものは…

○固い言葉でいえば、

「公共財の建設維持管理などを通し、安全で便利な国土の建設、住みやすい都市の整備に関わる業務への参画を通して、個々人の自己実現を図ること…」とします。

○そのためには…

- ・予算の執行を通して、国土の建設や都市整備に係る枠組みを設定しながら、当該業務の実現を図ること
⇒予算執行業務／公務員やそれに準ずる組織に属する人
- ・施設の建設・整備に係る調査・計画、設計などの面から、当該業務に関わりを持つこと
⇒建設コンサルタント業務
- ・施設整備に係る設計図書等に基づき、施設そのものを建設・整備し、維持管理業務を実施すること
⇒建設施工業務／所謂、ゼネコン

など、大きく分けて3つほどの業務への関わり方があると考えます。

○その一方で、これらの従来の枠組みを基本にしつつも、この枠組みを超えて、

⇒『PFI、PPP』なる事業手法を用い、施設整備に係る業務全般をマネジメントするような業務への関わり方が、次第に拡大しつつあります。

□建設コンサルタントとは…

上記の整理から、建設コンサルタントとは、

『所謂、“役所”における業務遂行に際して求められる専門的知識や技術・技能等の提供を通して当該業務への関わりを持ち、“ものをつくる”といった面に対しては、それを設計するといった面から関わりを持つ業務分野』と位置付けることができると思います。

☆具体的な業務とすれば…

- 主に公共事業として整備される諸施設の調査、計画、設計、施工管理など行う技術者集団の会社
- 対象とする施設…道路(高速道路、一般国道、地方道など)、鉄道(新幹線、都市鉄道、地方鉄道など)、都市交通(バス交通、LRTなど)、港湾、空港、河川、ダム、トンネル、橋梁、上・下水道、下水処理場、公園、広場
- 業務の概要／・企画・立案…発注当局に対し、公共施設整備に係る代替案を企画して立案し、それを提案する
 - ・事前調査業務…当該施設整備の必要性等を明らかにする事前的業務／種々の需要予測、事業化可能性調査(F/S)、住民の意向調査、交通管理調査、都市環境調査
 - ・計画業務…対象施設の規模、諸施設の配置計画、道路等との関連付け⇒都市計画、地域計画等
 - ・設計業務…施設の構造設計、設計図の作成、工事数量の算出、概算建設費の算定
 - ・施工管理業務…建設工事の施工管理、工事施工に絡む住民説明、発注当局との協議・提案
- ★新しい分野：・大規模商業施設の立地調査／施設配置計画等、
 - ・交通事業経営診断調査等
 - ・都市施設の運営管理業務(主に都市公園等)
 - ・医療・教育分野への進出(特に海外で…)、・発電事業への参入

◇業界規模

- ・公共投資額:約6兆円(16年度予算案) *因みに…:社会福祉費:32兆円、防衛費:5兆円、教育科学:5.3兆円
- ・建設コンサルタント登録企業:約4,000社、内、建設コンサルタント協会加盟企業:約400社
- ・加盟企業の売上高総額:約1兆円、加盟企業の従業員数:約45,000名

◇私の会社…(株)トーニチコンサルタント

○経営規模／業界での位置づけ…中堅コンサルと位置付けられます

因みに業界トップ企業／日本工営、パシフィックコンサルタンツ等

／当社の従業員数:現在:240名、平成元年頃／最大:380名、売上高(現在):約45億円/15年度実績

○得意分野 …「鉄道、都市交通に係る企画立案、調査・計画業務、設計業務、施工管理業務など」

／鉄道…北陸、北海道新幹線、リニア新幹線、在来鉄道線(JR線、民鉄線、地下鉄線、公営鉄道等)、
駅計画・設計…地平駅、地下駅、高架駅、駅改良計画・設計、貨物駅・貨物ヤード計画

／モノレール…羽田モノレール、多摩モノレール、大阪モノレール、北九州モノレール、沖縄モノレール

／新交通システム…ゆりかもめ、日暮里舎人ライナー、横浜新交通、埼玉新交通、

／LRT・路面電車、BRT、バス、ケーブルカー

／再開発調査・計画…有楽町駅前地区、調布駅南・北地区、国分寺駅北口、京急蒲田駅西口等

／駅前広場計画設計、地下広場計画設計、バリアフリー調査・計画、電線の地中化計画

□私の主な仕事

○調査業務

・都市交通に係る企画立案、調査・計画業務

○計画業務

・日暮里舎人ライナー／基礎調査、基本計画・事業成立可能性調査(F/S)／実施計画

・多摩都市モノレール／基礎調査、基本計画

・その他、主に地方都市における交通計画

○海外案件

・スリランカ／コロンボ都市鉄道改良計画調査

・バングラディッシュ／サイドプール車両基地計画調査

・モロッコ／カサブランカ・モノレール導入計画調査

・サンパウロ／都市交通セミナー開催とモノレール導入企画提案

・パナマ／モノレールセミナー講演(パナマ運河を跨ぐモノレール導入構想に向けたモノレールシステムの売込み)

○会社経營業務

・平成11年5月 取締役 東日本支社 計画本部長

・平成16年12月 常務取締役・管理本部長・兼企画開発部長

・平成20年12月 専務取締役・管理本部長・兼企画開発部長

・平成22年12月

～現在 顧問

☆主な役割:業務全般統括、運営資金調達／対銀行との融資折衝等

□仕事を通して感じたこと

○この仕事に45年余の間、関わってきて…

- ・社会人として、「充実して悔いのない人生」を送ることができた…と考えています。
- ・特に、業務への関わり方には色々な方法はあると思いますが、建設コンサルタントの、特に計画部門に長く関わったことは、「ある枠内での制約はあったものの、関わった調査、計画業務においては、独創性を持って対応することができ、また業務自体がクリエイティブで、自らの検討成果を自らの説明力や交渉力によって、発注者である顧客から評価を受け、それが実際に“もの”として出来上がっていくことを確認できた」…は、何にもまして喜ばしいことと思っています。

○学生の皆さんにお伝えしたいこと

建設コンサルタント業務に“自らが手を動かして”関わり、会社組織では後輩の指導、組織管理を実践し、そして会社の運営と経営に関わってきた経験から、次の3点をお伝えしたいと考えます。

- ・どのような業務に関わろうと、そこで失敗や顧客から不評を買おうと、“人生には無駄はない”ということを肝に銘じる事。それには“よりクリエイティブ”に仕事を実践し、失敗への対処・対応には“結果オーライ”へ持っていく努力をすること
- ・『健康はどんな人生を歩もうとも絶対必要条件』であることを常に考えた行動をすること。またそれは一朝一夕で達成できるものではなく、一日一日の積み重ねでしか成し得ないことを知り、実践すること
- ・人間社会で生きていることを少しでも早く気づき、“あいさつ”から始まる礼節を重んじ、言葉遣いを勉強し、食事のマナーなどと通じて、社会人としての良識とセンスを備えることが、グローバル化に向けた必須要件あると考えます

□「武蔵工業会及び都市大校友会との関わり」について

- ・平成12年12月 武蔵工業会・常務理事に就任
総務委員長、課題検討委員会委員、親睦ゴルフ大会実行委員長
- ・平成21年12月 都市大校友会・幹事就任
企画委員、総務委員、会則・細則検討部会委員、親睦ゴルフ大会実行委員長
- ・平成27年3月 幹事を退任
- ・現在:校友会／総務委員、企画委員及び会則・細則検討部会委員を務めている

□校友会活動に関する私見

工業会の役員に就任した当時、同窓会活動の“イロハ”の“イ”も分からず、常任委員会に出席して皆さんの意見や考えにただただ感心させられるだけでしたが、次第に何が問題で、どのような対応が求められるかなど、自らの考えが整理できるようになりました。

そのころから同窓会統合問題が浮上し、大学当局や旧美砂会と対峙する場面の多々ありましたが、その場面での松下前会長を初めとする役員各位の懸命な努力の結果、何とか現在の校友会組織が立ち上がり、スタートを切ることができたわけです。

これらの動きを背景にして、私なりに「都市大校友会」の活動の今後について、若干の私見を述べさせていただきます。

○同窓会の本来的設立意義とは…

今現在、私としては常に考えざるを得ないテーマとして、平成27年度に企画委員として参画した「校友会活動のあり方検討会」では、種々の活動に係る問題/課題を受け、校友会活動のあるべき姿について、かなり時間をかけて議論をしながら、ある一定の方向性を見出されていると考えています。

それを二つの観点から、私なりに整理すれば、

- ①卒業生の多様な親睦・懇親の場の提供を通じて培われたネットワークや組織力などを活用し、OB・OGの立場から、種々の活動を通して、大学のさらなる発展に寄与すること
- ②その最も至近の具体例として、OB・OGが長年の勤務などで培った多様なストックなどを在校生の就職活動支援に全面的に活用し、この面からの学生のポテンシャル向上に寄与し、以って大学の社会的認知度向上に寄与することと考えています。

○本質的な課題

その一方で、校友会活動に対する会員の多くには、“無関心さ”が存在します。何言う私もかつてはその一人でありましたから、何ゆえに「無関心であるか…」は分かっているつもりです。

その要因についての議論はここでは省きますが、私は、同窓会活動というものは、所詮“そういうもの”で、そこからの出発に基づいてすべてが始まり、その状況を少しでも改善するために、校友会といった限られた組織の中で、出来ることを地道に実践していくこと…と思うようになりました。

○それへの対応について

但しその際、同窓のOB・OGが校友会執行部に何を求めているかを着実に把握する「仕組みづくり」と「不断の努力」は大切な事…と思っていますが、実はこれが、正に“云うは易く、行うは難たし”のそのもので、特に執行部に関わる方々が自らの時間を費やして活動するには当然、限界もあり、また全てがボランティアの元ではなおさらと思います。

○そういう流れから導かれる結論としては…

校友会全員の会員数から見れば、現在、校友会の組織運営に関わっておられる方々は少数派そのものですが、それでも校友会活動を実践することに“何かしらの意義”を見出しながら、状況によっては“目的化すること”もあると思いますが、それらの人が核となり、その核を少しでも拡大する努力だけは確実に実行し、それらの活動と並行しながら、求められる諸活動を展開することに尽きるように思っています。

○緑土会の活動について

緑土会は今さら言うに及ばず、校友会活動の要の組織であることは、過去にも現在においても、そして将来的にも変わりのないことと思います。そして緑土会の活動の活性化は「校友会の活性化」に即く繋がるものと確信していますが、そのような意味から、“長い伝統”に培われた活動の実践に加え、大きく変化する社会的・経済的状況を踏まえながら、会員各位の潜在的ニーズがどこに存在し、それをどのようにして汲み上げていくか、また、それらのニーズに目を向けた施策の実践をどう展開するか、上述の「同窓会活動の基本理念」に重なる議論かもしれませんが、活発化した活動を切に望むものです。

以上